

張介賓『類經』

肺手太陰之脉。起于中焦。

十二經脈所属，肺為手太陰經也。中焦当胃中脘，在臍上四寸之分。手之三陰，從藏走手，故手太陰脉発于此。凡後手三陰經，皆自内而出也。愚按：此十二經者，即營氣也。營行脉中，而序必始于肺經者，以脉气流經，經氣歸于肺，肺朝百脉以行陰陽，而五藏六府皆以受氣，故十二經以肺經為首，循序相伝，尽于足厥陰肝經而又伝于肺，終而復始，是為一周。

【現代語訳】

十二經脈の所属では、肺は手太陰經である。中焦は胃の中脘穴に当たり、臍の上4寸の部分に在る。手の三陰經脈は藏から手に走る。したがって手太陰脈はこのところから始まる。後の手三陰經もすべて皆、内より出るのである。私が思うに、この十二經とは即ち營氣のことである。營氣が脈中を行る順序が肺經より始まるのは、脈氣は經を流れ、經氣は肺に歸し、肺は百脈を朝めて、陰陽を行らし、而も五藏六府は皆な氣を受けるからである。したがって十二經は肺經を首とし、順序に従って相伝し、足厥陰肝經で尽きて、また肺に伝わる。終わって復た始まり、これで一周となるのである。

下絡大腸。

絡，聯絡也。当任脉水分穴之分，肺脉絡于大腸，以肺與大腸為表裏也。按：十二經相通，各有表裏。凡在本經者皆曰属，以此通彼者皆曰絡，故在手太陰則曰属肺絡大腸，在手陽明則曰属大腸絡肺，彼此互更，皆以本經為主也。下文十二經皆倣此。

【現代語訳】

絡とは連絡することである。任脈の水分穴の部分で、肺脈は大腸に絡す。それによって肺と大腸は表裏となっている。思うに十二經は相通じ、各々に表裏が有る。全て本經に在ることを属と曰い、此れから彼れに通じること皆、絡と曰う。故に手太陰經では肺に属し、大腸に絡すと曰い、手陽明經では、大腸に属し肺に絡すと曰う。彼れ此れ互いに更わるのは皆、本經を主とするからである。下文の十二經も皆、これに倣っている。

還循胃口。

還，復也。循，巡繞也。自大腸而上，復循胃口。

【現代語訳】

還は復、循は巡り繞ること。大腸より上り、復胃口を循る。